
3-8 ISCN 夏の学校 2025 実施報告

【概要】

機構は、日本の大学・高等専門学校で夏期休暇期間中に、学生が原子力について広く学ぶ機会を提供し、原子力分野の人材育成に資するために夏期休暇実習を実施している。その中で ISCN は、学生が核不拡散・核セキュリティ一般について学ぶ機会を提供するために、夏期休暇実習生の受入れを実施している。2021 年度には、この活動を更に発展させる試みとして「ISCN 夏の学校」をスタートした。ISCN 夏の学校の目的は、核不拡散・核セキュリティ分野についての理解を更に深めることと、実習生同士の交流の場を提供することである。

【昨年度の夏の学校実施報告はこちらから】

2024 年度：https://www.jaea.go.jp/04/iscn/nnp_news/attached/0334.pdf#page=41

5 回目の開催となる今年度は ISCN 各室で受け入れた学生 11 人の他、高温ガス炉プロジェクト推進室等の JAEA 内で受け入れた学生 5 人を対象に実施した。プログラム概要は以下のとおり。

■プログラム概要（実施日）

(1) オリエンテーション（8 月 18 日）

(2) 講義・施設見学（8 月 26 日）

- ▶ 核セキュリティに関する講義
- ▶ ISCN 実習フィールド・バーチャルリアリティシステム(VR)の見学
- ▶ 包括的核実験禁止条約(CTBT)・核鑑識に関する講義
- ▶ 技術開発推進室のラボ見学

(3) 講義・座談会（9 月 3 日）

- ▶ 核軍縮・核不拡散・保障措置に関する講義
- ▶ 国際機関勤務経験者との意見交換会

(4) 講義（9 月 12 日）

- ▶ 諸国における脱炭素に向けた原子力開発の取組みに関する講義

(5) 夏期休暇実習成果報告会¹³¹ (9月18日)

講義では、学生にとって普段は馴染みのない核不拡散や核セキュリティについて、混在しがちな用語の意味やどのような脅威が存在するのか、また、どのような国際協力枠組が存在するのか等の基本的な内容について紹介した。加えて、今回の夏の学校では、今年度に ISCN と統合した原子力人材育成センターが有する知見を活用して「諸国の脱炭素に向けた原子力開発の取組み」をテーマとした対話型講義も実施した。全ての講義において、学生から多くの質問や率直な意見が寄せられたことで、双方にとって非常に学びのある時間となった。



講義の様子

ISCN 実習フィールドの見学では、侵入検知センサーや監視カメラ等の核セキュリティに資する設備や模擬中央警報監視所(CAS)の役割等を紹介したほか、VR を用いて原子力施設における出入管理手続きの模擬体験等を実施した。本見学では VR やセンサー等の実機で様々な体験をすることにより、核セキュリティについて初めて学ぶ学生でも好奇心をもって学べるよう努めた。

また、今年度は ISCN 実習フィールドの見学だけでなく、技術開発推進室の有する各種ラボの見学も行った。本見学により、核セキュリティのための措置に加えて CTBT や核鑑識についても、現場の専門家との対話を通じて、実践的な学びを得られる場を提供した。

¹³¹ 夏期休暇実習成果報告会は、学生がそれぞれの受入部署で実施した夏期休暇実習の成果を報告するための会である。



技術開発推進室の見学の様子

夏期休暇実習成果報告会では、ISCNの夏期休暇実習に参加した学生たちが各々の実習における成果をISCNスタッフや他の学生たちに向けて報告し、その報告に対しての質疑応答やISCNスタッフからのフィードバックを行った。

ISCNは今後も夏期休暇実習及び夏の学校等の様々なプログラムを通して、未来を担う学生たちの核不拡散・核セキュリティ分野に対する関心の喚起に努める所存である。また、ISCNにとっても、学生たちの多角的かつ新たな視点を知ることができる貴重な機会であるため、今後も精力的に取り組んでいく。

【報告:能力構築支援室 今村 有里】